



## E コマンド

---

この章では、コマンド名が E で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

# erspan-id

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) セッションのフロー ID を設定するには、**erspan-id** コマンドを使用します。

**erspan-id** *flow\_id*

構文の説明	<i>flow_id</i>	ERSPAN フロー ID。指定できる範囲は 1 ~ 1023 です。
-------	----------------	-------------------------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	config-erspan-src
----------	-------------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 ネットワーク オペレータ
---------------	---------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。
------------	-----------------------

例	次に、ERSPAN セッションのフロー ID を設定する例を示します。  <pre>switch# configure terminal switch(config)# monitor session 5 type erspan-source switch(config-erspan-src)# erspan-id 100 switch(config-erspan-src)#</pre>
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>ip dscp</b>	ERSPAN トラフィックのパケットの DSCP 値を設定します。
	<b>ip ttl</b>	ERSPAN トラフィックの IP 存続可能時間 (TTL) 値を設定します。
	<b>vrf</b>	ERSPAN トラフィックの転送の VRF を設定します。
	<b>monitor-session</b>	ポート間トラフィック分析のために、ERSPAN または SPAN セッションを設定するためのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。

# ethanalyzer local interface

スーパーバイザまたは管理インターフェイスからの（への）パケットを取り込むには、**ethanalyzer local interface** コマンドを使用します。パケットのキャプチャを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ethanalyzer local interface {inband | mgmt}[[capture-filter capt-expression]  
[capture-ring-buffer duration seconds write bootflash | files files write bootflash |
```

```
filesize kilobytes write bootflash [display-filter disp-expression] [limit-captured-frames limit]  
[limit-frame-size bytes] [write location]] [brief]
```

```
no ethanalyzer local interface {inband | mgmt}[[capture-filter capt-expression]  
[capture-ring-buffer duration seconds write bootflash | files files write bootflash | filesize  
kilobytes write bootflash [display-filter disp-expression] [limit-captured-frames limit]  
[limit-frame-size bytes] [write location]] [brief]
```

## 構文の説明

<b>inband</b>	スーパーバイザ モジュールとインターフェイス モジュール間でやり取りされるパケットをキャプチャします。
<b>mgmt</b>	mgmt0 ポートへの（からの）パケットをキャプチャします。
<b>capture-filter</b> <i>capt-expression</i>	（任意）式に基づいて出力の表示をフィルタリングします。式は引用符で囲まれたストリングです。
<b>capture-ring-buffer</b>	（任意）rinf バッファ オプションをキャプチャします。
<b>duration</b>	値で指定した秒数が経過した後、ファイルへの書き込みを停止するか、次のファイルに切り替えます。
<i>seconds</i>	秒単位の時間。範囲は 0 ～ 2147483647 です。
<b>write</b>	キャプチャを保存するファイル名。
<b>files</b>	値で指定した数のファイルを書き込んだ後、キャプチャ ファイルへの書き込みを停止するか、最初のファイルから再度開始します（リング バッファを形成します）。
<i>files</i>	ファイル数。範囲は 2 ～ 64 です。
<i>bootflash</i>	ブートフラッシュ ファイル名を指定します。
<b>filesize</b>	値で指定したサイズ（KB 単位）に達すると、キャプチャ ファイルへの書き込みを停止するか、次のファイルに切り替えます。
<i>kilobytes</i>	キロバイト単位のサイズ。範囲は 1 ～ 65536 です。
<b>display-filter</b> <i>disp-expression</i>	（任意）式に基づいて出力の表示をフィルタリングします。式は引用符で囲まれたストリングです。
<b>limit-captured-frames</b> <i>limit</i>	（任意）キャプチャする最大フレームワーク数を設定します。範囲は 0 ～ 2147483647 です。デフォルトは 100 です。
<b>limit-frame-size</b> <i>bytes</i>	（任意）フレームから設定したバイト数をキャプチャします。範囲は 64 ～ 65535 です。
<b>write</b> <i>location</i>	（任意）キャプチャした情報を設定した場所に保存します。場所は 64 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
<b>brief</b>	（任意）キャプチャしたパケットのプロトコル サマリーを表示します。

## デフォルト

パケットをキャプチャしません。

**コマンドモード** 任意のコマンドモード

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
ネットワーク オペレータ  
VDC 管理者  
VDC オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.2(5) および 5.0(1)	構文の説明にオプション <b>capture-ring-buffer</b> を追加しました。
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** Cisco Ethalyzer は Wireshark オープン ソース コードに基づいています。  
このコマンドにライセンスは必要ありません。

**例** 次に、mgmt 0 ポート上のすべてのパケットをキャプチャする設定例を示します。

```
switch# ethalyzer local interface mgmt
#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>ethalyzer local read</b>	キャプチャしたパケットデータを Ethalyzer キャプチャから読み取ります。

# ethanalyzer local read

Ethanalyzer によってキャプチャされたパケットを読み取るには、**ethanalyzer local read** コマンドを使用します。キャプチャしたパケットの読み取りを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ethanalyzer local read** *location*

**no ethanalyzer local read** *location*

構文の説明	<i>location</i>	キャプチャしたパケットが読み出される場所。場所は 64 文字以内の英数字のストリング（大文字と小文字を区別）で指定します。
デフォルト	なし	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 ネットワーク オペレータ VDC 管理者 VDC オペレータ	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	Cisco Ethanalyzer は Wireshark オープンソースコードに基づいています。 このコマンドにライセンスは必要ありません。	
例	次に、mgmt 0 ポート上のすべてのパケットをキャプチャする設定例を示します。 <pre>switch# ethanalyzer local read bootflash:test-mgmt0 #</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>ethanalyzer local interface</b>	スーパーバイザまたは mgmt0 ポートへの（からの）パケットをキャプチャします。

# event cli

Cisco NX-OS コマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドとのパターン マッチによって起動される Embedded Event Manager (EEM; 組み込み型イベント マネージャ) アプレットのイベント条件を指定するには、**event cli** コマンドを使用します。CLI コマンドのイベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event cli [tag tag] match regex [count countnum] [time interval]
```

```
no event cli match regex [count countnum] [time interval]
```

## 構文の説明

<b>tag tag</b>	(任意) 複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。
<b>match regex</b>	CLI コマンドとのパターン マッチに使用する正規表現 ( <i>regex</i> ) を指定します。CLI コマンドの構文解析に成功するとパターン マッチが行われます。パターン マッチでは、完全に展開された CLI コマンドストリングと比較します。正規表現に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<b>count countnum</b>	(任意) EEM イベントがトリガーされるために必要なマッチ回数を指定します。マッチ回数を省略すると、最初のマッチで EEM イベントがトリガーされます。 <i>countnum</i> 引数は 1 以上の整数でなければなりません。
<b>time interval</b>	(任意) 1 回以上のマッチを行う必要がある場合の実行間隔を指定します。このキーワードを省略すると、実行間隔はチェックされません。 <i>interval</i> 引数は、0 ~ 4294967295 の整数 (秒) です。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2.(1)	<b>tag tag</b> キーワードが追加されました。
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EEM アプレットによるマッチの対象となる CLI コマンドを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet eventcli-applet
switch(config-applet)# event cli match "write memory.*" time 13
switch(config-applet)#
```

# event counter

名前付きカウンタがしきい値を超えた場合に起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプリットのイベント条件を指定するには、**event counter** コマンドを使用します。カウンタ イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event counter [tag tag] name name entry-val value entry-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} [exit-val value exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le}]
```

```
no event counter name name
```

## 構文の説明

<b>tag</b> <i>tag</i>	(任意) 複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。
<b>name</b> <i>name</i>	モニタするカウンタの名前を指定します。 <i>name</i> 識別子には任意のストリングを指定できます。
<b>entry-val</b> <i>value</i>	カウンタ イベントを発生させるかどうかを決定するために、現在のカウンタ値と比較する値を指定します。有効な範囲は -2147483648 ~ 2147483647 です。
<b>entry-op</b> <i>op</i>	現在のカウンタ値を入口値と比較する際に使用する演算子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>gt</b> : より大きい</li> <li>• <b>ge</b> : 以上</li> <li>• <b>eq</b> : 等しい</li> <li>• <b>ne</b> : 等しくない</li> <li>• <b>lt</b> : より小さい</li> <li>• <b>le</b> : 以下</li> </ul> <p>マッチが見つかったら、イベントがトリガーされ、終了条件が満たされるまでイベント モニタリングがディセーブルになります。</p>
<b>exit-val</b> <i>value</i>	(任意) 終了条件が満たされているかどうかを決定するために、現在のカウンタ値と比較する値を指定します。有効な範囲は -2147483648 ~ 2147483647 です。
<b>exit-op</b> <i>op</i>	(任意) 現在のカウンタ値を出口値と比較する際に使用する演算子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>gt</b> : より大きい</li> <li>• <b>ge</b> : 以上</li> <li>• <b>eq</b> : 等しい</li> <li>• <b>ne</b> : 等しくない</li> <li>• <b>lt</b> : より小さい</li> <li>• <b>le</b> : 以下</li> </ul> <p>マッチが見つかったらイベントが起動され、イベント モニタリングが再イネーブルされます。</p>

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
5.2.(1)	<b>tag tag</b> キーワードが追加されました。
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**

このコマンドにライセンスは必要ありません。

**例**

次に、定義済みの *critical\_errors* カウンタが入口値を超えると起動される EEM アプレットのイベント条件を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet eventcntr-applet
switch(config-applet)# event counter name critical_errors entry-val 3 entry-op gt
switch(config-applet)#
```

# event fanabsent

ファン欠損イベントに基づいて起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットのイベント条件を指定するには、**event fanabsent** コマンドを使用します。ファン欠損イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event fanabsent** [*fan number*] *time interval*

**no event fanabsent** [*fan number*] *time interval*

## 構文の説明

<b>fan number</b>	(任意) ファン欠損イベントのモニタ対象となるファン番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4 です。
<b>time interval</b>	ファンが欠損したまま放置できる時間間隔 (秒) を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 です。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ファン欠損イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet absent-applet
switch(config-applet)# event fanabsent time 42
switch(config-applet)#
```

# event fanbad

ファン不良イベントに基づいて起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットのイベント条件を指定するには、**event fanbad** コマンドを使用します。ファン不良イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event fanbad** [*fan number*] *time interval*

**no event fanbad** [*fan number*] *time interval*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>fan number</i>	(任意) ファン不良イベントのモニタ対象となるファン番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4 です。
	<i>time interval</i>	ファンが不良のまま放置できる時間間隔 (秒) を指定します。範囲は 0 ~ 4294967295 です。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは必要ありません。

例 次に、ファン不良イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet bad-applet
switch(config-applet)# event fanbad time 42
switch(config-applet)#
```

# event gold

1 つ以上のモジュールをモニタしているときの Generic Online Diagnostic (GOLD) 障害イベントに基づいて起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットのイベント条件を指定するには、**event gold** コマンドを使用します。GOLD 障害イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event gold module {module | all} test name [severity {minor | moderate | major}] testing-type
{bootup | ondemand | scheduled | monitoring} consecutive-failure cnt
```

```
no event gold module {module | all} test name
```

## 構文の説明

<b>module</b>	1 つのモジュールまたはすべてのモジュールをモニタする必要があることを指定します。  (注) <b>event gold</b> コマンドを実行する場合、 <b>module</b> キーワードは必須です。
<i>module</i>	モニタする個々のモジュールの番号。
<b>all</b>	すべてのモジュールをモニタ対象とします。
<b>test name</b>	イベント条件のテスト名を指定します。
<b>severity</b>	(任意) 診断結果のイベント条件にマッチする GOLD 診断エラーを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>minor</b> : マイナー GOLD 診断エラーとのマッチを指定します。</li> <li>• <b>moderate</b> : 中程度の GOLD 診断エラーとのマッチを指定します。</li> <li>• <b>major</b> : メジャー GOLD 診断エラーとのマッチを指定します。</li> </ul>
<b>testing-type</b>	GOLD の診断テスト タイプに基づいてイベント条件を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>bootup</b> : システム起動時に実行する診断テストを指定します。</li> <li>• <b>ondemand</b> : モジュールがオンラインになったあと、CLI から起動される診断テストを指定します。</li> <li>• <b>schedule</b> : スケジューリングされた診断テストを指定します。</li> <li>• <b>monitoring</b> : システムのヘルス状態をモニタするためにバックグラウンドで定期的に行われる診断テストを指定します。</li> </ul>
<b>consecutive-failure cnt</b>	GOLD の連続テスト障害情報に基づいてイベント条件を指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

---

**使用上のガイドライン**

このコマンドにライセンスは必要ありません。

---

**例**

次に、任意のモジュールで新規の GOLD 障害イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# event manager applet gold-match  
switch(config-applet)# event gold module all test atBoot testing-type bootup  
switch(config-applet)#
```

# event manager applet

組み込み型イベント マネージャ (EEM) にアプレットを登録してアプレット コンフィギュレーション モードに入るには、**event manager applet** コマンドを使用します。設定からアプレット コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event manager applet** *applet-name* [*override name*]

**no event manager applet** *applet-name*

## 構文の説明

<i>applet-name</i>	アプレットの一意な識別子。この識別子には任意のストリングを指定できます。
<i>override name</i>	(任意) システム ポリシーを上書きするポリシーを指定します。 <i>name</i> は上書きされるシステム ポリシーの名前です。ポリシー名は、2 つの連続するアンダースコアで始まっていなければなりません。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EEM にアプレットを登録して、アプレット コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet eem-applet
switch(config-applet)#
```

# event manager clear counter

組み込み型イベント マネージャ (EEM) カウンタをクリアするには、**event manager clear counter** コマンドを使用します。

**event manager clear counter** *counter-name*

## 構文の説明

*counter-name* クリアするカウンタの名前。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EEM カウンタをクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager clear counter eem-counter
switch(config)#
```

# event manager clear history events

すべての組み込み型イベント マネージャ (EEM) イベント履歴をクリアするには、**event manager clear history events** コマンドを使用します。

## event manager clear history events

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンド モード

Embedded Event Manager

### サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

### 例

次に、すべての EEM イベント履歴をクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager clear history events
switch(config)#
```

# event manager environment

組み込み型イベント マネージャ (EEM) 環境変数を設定するには、**event manager environment** コマンドを使用します。EEM 環境変数をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event manager environment** *varname varvalue*

**no event manager environment** *varname*

## 構文の説明

<i>varname</i>	EEM 環境変数の名前。
<i>varvalue</i>	環境変数 <i>varname</i> 内に保存するストリング (空白文字を含む)。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、EEM 環境変数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager environment _cron_entry 0-59/2 0-23/1 * * 0-7
switch(config)#
```

# event manager policy

組み込み型イベント マネージャ (EEM) ポリシーを EEM に登録するには、**event manager policy** コマンドを使用します。設定ファイルから **event manager policy** コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event manager policy** *VSHscriptfilename*

**no event manager policy** *VSHscriptfilename*

構文の説明	<i>VSHscriptfilename</i> EEM に登録する VSH スクリプト ファイルの名前。この名前が EEM ポリシー名になります。  (注) システム ポリシー名は、2 個の下線記号 (__) から始まります。
-------	--

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	Embedded Event Manager
----------	------------------------

サポートされるユーザーロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者
----------------	----------------------

コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th style="border: none;">リリース</th> <th style="border: none;">変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">4.0(1)</td> <td style="border: none;">このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(1)	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン	<p>このコマンドにライセンスは必要ありません。</p> <p>EEM は、ポリシー自体に含まれているイベントの指定内容に基づいて、ポリシーをスケジューリングおよび実行します。<b>event manager policy</b> コマンドが呼び出されると、EEM はポリシーを確認し、指定されたイベントが発生した場合に実行されるように登録します。</p>
------------	--

例	次に、ポリシーを登録する例を示します。
---	---------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager policy fanpolicy.vsh
switch(config)#
```

# event manager run

登録済みの組み込み型イベント マネージャ (EEM) ポリシーを手動で実行するには、**event manager run** コマンドを使用します。

**event manager run** *policy-name*

## 構文の説明

*policy-name*      実行する登録済み EEM ポリシーの名前。  
 (注) システム ポリシー名は、2 個の下線記号 (\_\_) から始まります。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
 VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、登録済みの EEM ポリシーを手動で実行する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager run fanpolicy.vsh
switch(config)#
```

# event module-failure

モジュール障害イベントに基づいて起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットの イベント条件を指定するには、**event module-failure** コマンドを使用します。モジュール障害イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event module-failure type err-name module {all | module} count count [time interval]
```

```
no event module-failure type err-name module {all | module} count count
```

## 構文の説明

<b>type</b> <i>err-name</i>	障害条件のタイプを指定します。次のいずれかの <i>err-name</i> 条件を選択します。 <b>any</b> : 任意の障害 <b>addon-sequence-failure</b> : アドオン シーケンス障害 <b>hitless-upgrade-diag-failure</b> : 中断のないアップグレード後のランタイム診断障害 <b>hitless-upgrade-failure</b> : 中断のないアップグレード障害 <b>hitless-upgrade-procmgr-notif</b> : 中断のないアップグレード後の LC ソフトウェア障害 <b>hitless-upgrade-reg-failure</b> : 中断のないアップグレード後の登録障害 <b>hitless-upgrade-seq-timeout</b> : 中断のないアップグレード シーケンス タイムアウト <b>image-download-failed</b> : イメージ ダウンロード障害 <b>image-upgrade-failed</b> : イメージ アップグレード エラー <b>insertion-seq-failure</b> : 挿入シーケンス エラー <b>lc-failed</b> : LC エラー <b>lc-not-responding</b> : LC 未応答 <b>lc-ready-timeout</b> : LC レディ タイムアウト <b>lc-sw-failure</b> : LC ソフトウェア エラー <b>registration-failure</b> : 登録エラー <b>registration-timeout</b> : 登録タイムアウト <b>runtime-diag-failure</b> : ランタイム診断エラー <b>runtime-diag-timeout</b> : ランタイム診断タイムアウト <b>sequence-timeout</b> : シーケンス タイムアウト <b>srg-info-resp-timeout</b> : SRG 情報応答タイムアウト <b>unexpected-registration</b> : 予定外の登録を受信 <b>upgrade-srg-not-compatible</b> : SRG アップグレードが非互換
<b>module</b>	1 つのモジュールまたはすべてのモジュールをモニタする必要があることを指定します。
<i>module</i>	モニタする個々のモジュールの番号。
<b>all</b>	すべてのモジュールをモニタ対象とします。

<b>count</b> <i>count</i>	モジュール障害イベントがトリガーされるために必要なマッチ回数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 です。
<b>time</b> <i>interval</i>	(任意) イベント発生までの規定待ち時間 (秒) を指定します。範囲は 0 ~ 4294967295 です。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** Embedded Event Manager

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.2.(1)	<b>tag tag</b> キーワードが追加されました。
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは必要ありません。

**例** 次に、モジュール障害イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet modfail-applet
switch(config-applet)# event module-failure type unexpected-registration module 6 count 2
switch(config-applet)#
```

# event module status

モジュールにステータス イベントを設定するには、**event module status** コマンドを使用します。ステータス イベント設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event module status** {**online** | **offline** | **any**} **module** {**all** | *module-number*}

**no event module status** {**online** | **offline** | **any**} **module** {**all** | *module-number*}

## 構文の説明

<b>online</b>	オンライン ステータスを指定します。
<b>offline</b>	オフライン ステータスを指定します。
<b>any</b>	オンラインまたはオフラインのステータスを指定します。
<b>module</b>	モジュールを指定します。
<b>all</b>	すべてのモジュールを指定します。
<i>module-number</i>	モジュール番号。有効な範囲は 1 ~ 18 です。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、モジュールにステータス イベントを設定する例を示します。

```
switch(config)# event manager applet EVM1
switch(config-applet)# event module status any module 10
switch(config-applet)#
```

次に、ステータス イベント設定を削除する例を示します。

```
switch(config-applet)# no event module status any module 10
switch(config-applet)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>event manager applet</b>	組み込み型イベント マネージャ (EEM) でアプレットを登録します。
<b>event manager policy</b>	Embedded Event Manager (EEM) ポリシーを EEM に登録します。

# event oir

ハードウェアの活性挿抜（OIR）時に発生するイベントに基づいて組み込み型イベント マネージャ（EEM）アプレットが起動されるように指定するには、**event oir** コマンドを使用します。このコマンドには、**fan**、**module**、**powersupply** の 3 つの形式があります。設定から活性挿抜の指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event oir [tag tag] {fan | module | powersupply} {insert | remove | anyoir} [number]
```

```
no event oir [tag tag] {fan | module | powersupply} {insert | remove | anyoir} [number]
```

## 構文の説明

<b>tag tag</b>	(任意) 複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。
<b>fan</b>	システム ファンを指定します。個々のファンを個別に指定することもできます。
<b>module</b>	システム モジュールを指定します。個々のモジュールを個別に指定することもできます。
<b>powersupply</b>	システム電源装置を指定します。個々の電源装置を個別に指定することもできます。
<b>insert</b>	OIR を挿入するように指定します。
<b>remove</b>	OIR を削除するように指定します。
<b>anyoir</b>	OIR を挿入または削除するよう指定します。
<b>number</b>	(任意) <b>fan</b> を選択した場合は、活性挿抜イベントのモニタ対象となるファンの番号を入力します。指定できる範囲は 1 ~ 4 です。 <b>module</b> を選択した場合は、活性挿抜イベントのモニタ対象となるモジュールの番号を入力します。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。 <b>powersupply</b> を選択した場合は、活性挿抜イベントのモニタ対象となる電源装置の番号を入力します。有効な範囲は 1 ~ 3 です。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2.(1)	<b>tag tag</b> キーワードが追加されました。
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

---

**例**

次に、モジュール活性挿抜が行われたときに発生するイベントに基づいて EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# event manager applet oir-applet  
switch(config-applet)# event oir module anyoir  
switch(config-applet)#
```

# event policy-default

システム ポリシーが上書きされている場合にイベントを使用するには、**event policy-default** コマンドを使用します。上書きされたポリシーを使用するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

**event policy-default count** *count* [*time interval*]

**no event policy-default count** *count*

構文の説明	count <i>count</i>	<i>time interval</i>
	デフォルトのイベントがトリガーされるために必要なマッチ回数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 です。	(任意) イベント発生までの規定待ち時間 (秒) を指定します。範囲は 0 ~ 4294967295 です。

デフォルト なし

コマンド モード Embedded Event Manager

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは必要ありません。

例 次に、システム ポリシーが上書きされるときにイベントを使用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event policy-default count 6
switch(config)#
```

# event snmp

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) オブジェクト識別子の値をサンプリングすることによって起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットのイベント条件を指定するには、**event snmp** コマンドを使用します。SNMP イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event snmp [tag tag] oid value get-type {exact | next} entry-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} entry-val
value [{exit-comb {or | and} exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value exit-time time} |
{exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value}] poll-interval value
```

```
no event snmp [tag tag] oid value get-type {exact | next} entry-op {gt | ge | eq | ne | lt | le}
entry-val value [{exit-comb {or | and} exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value exit-time
time} | {exit-op {gt | ge | eq | ne | lt | le} exit-val value}] poll-interval value
```

## 構文の説明

<b>tag tag</b>	(任意) 複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。
<b>oid value</b>	<p><i>value</i> 引数に SNMP オブジェクト識別子 (オブジェクト ID) をイベント条件として指定します。<i>value</i> のデータ要素は、SNMP ドット付き表記で指定する必要があります。OID は MIB に関連付けられた型として定義され、各型がオブジェクト値を持ちます。一部の OID 型のモニタリングが可能です。<b>oid</b> キーワードを使用すると、OID が次のいずれでもない場合にエラーメッセージが返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• INTEGER_TYPE</li> <li>• COUNTER_TYPE</li> <li>• GAUGE_TYPE</li> <li>• TIME_TICKS_TYPE</li> <li>• COUNTER_64_TYPE</li> <li>• OCTET_PRIM_TYPE</li> <li>• OPAQUE_PRIM_TYPE</li> </ul>
<b>get-type</b>	<b>oid value</b> 引数で指定したオブジェクト ID に適用する SNMP get 操作のタイプを指定します。
<b>exact</b>	<b>oid value</b> 引数で指定したオブジェクト ID を検索します。
<b>next</b>	<b>oid value</b> 引数で指定したオブジェクト ID の英数字順で取得します。
<b>entry-op op</b>	<p>現在のオブジェクト ID 値を入口値と比較する際に使用する演算子を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>gt</b> : より大きい</li> <li>• <b>ge</b> : 以上</li> <li>• <b>eq</b> : 等しい</li> <li>• <b>ne</b> : 等しくない</li> <li>• <b>lt</b> : より小さい</li> <li>• <b>le</b> : 以下</li> </ul> <p>マッチが見つかり、イベントがトリガーされ、終了条件が満たされるまでイベント モニタリングがディセーブルになります。</p>

<b>entry-val</b> <i>value</i>	SNMP イベントを発生させるかどうかを決定するために、現在のオブジェクト ID 値と比較する値 ( <i>value</i> ) を指定します。
<b>exit-comb</b>	(任意) イベント モニタリングを再イネーブルするために満たす必要のある終了条件の組み合わせを示します。
<b>or</b>	(任意) 終了比較演算子、終了オブジェクト ID 値、または終了時間値を指定する必要があります。
<b>and</b>	(任意) 終了比較演算子、終了オブジェクト ID 値、および終了時間値を指定する必要があります。
<b>exit-op</b> <i>op</i>	(任意) 現在のオブジェクト ID 値を出口値と比較する際に使用する演算子を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>gt</b> : より大きい</li> <li>• <b>ge</b> : 以上</li> <li>• <b>eq</b> : 等しい</li> <li>• <b>ne</b> : 等しくない</li> <li>• <b>lt</b> : より小さい</li> <li>• <b>le</b> : 以下</li> </ul> <p>マッチが見つかったらイベントが起動され、イベント モニタリングが再イネーブルされます。</p> <p><b>(注)</b> <b>exit-comb</b> キーワードを定義した場合、このキーワードと引数は必須になります。</p>
<b>exit-val</b> <i>value</i>	(任意) 終了条件が満たされているかどうかを決定するために、現在のオブジェクト ID と比較する値を指定します。 <p><b>(注)</b> <b>exit-comb</b> キーワードを定義した場合、このキーワードと引数は必須になります。</p>
<b>poll-interval</b> <i>value</i>	連続するポーリング操作間の時間間隔を指定します。 <i>value</i> 引数は、1 ~ 4294967295 の整数 (秒) です。最小ポーリング間隔は 1 秒です。

**デフォルト** なし

**コマンド モード** Embedded Event Manager

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.2.(1)	<b>tag</b> <i>tag</i> キーワードが追加されました。
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドにライセンスは必要ありません。

---

**例**

次に、SNMP オブジェクト識別子値をサンプリングすることによって起動される EEM アプレットのイベント条件を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet snmp-applet
switch(config-applet)# event snmp oid 4.2.1.6 get-type next entry-op eq entry-val 42
poll-interval 2
switch(config-applet)#
```

# event storm-control

ストーム制御イベントに基づいて起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットのイベント条件を指定するには、**event storm-control** コマンドを使用します。ストーム制御イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event storm-control**

**no event storm-control**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ストーム制御イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet storm-applet
switch(config-applet)# event storm-control
switch(config-applet)#
```

# event syslog

Cisco NX-OS の Embedded Event Manager (EEM) を、イベントを監視するように設定するには **event syslog** コマンドを使用します。Syslog の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event syslog [ tag tag ] [ occurs | pattern msg-text | period | priority [0-7 | emergencies | alerts |
critical | errors | warnings | notifications | informational | debugging]]
```

```
no event syslog [ tag tag ] [ occurs | pattern msg-text | period | priority [0-7 | emergencies | alerts
| critical | errors | warnings | notifications | informational | debugging]]
```

## 構文の説明

<b>tag tag</b>	(任意) 複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。
<b>occurs</b>	(任意) 発生数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65000 です。
<b>pattern msg-text</b>	(任意) 一致する正規表現 (regex) を指定します。パターンには、文字テキスト、環境変数、またはこの 2 つの組み合わせを含めることができます。文字列に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<b>period</b>	(任意) イベントが発生する時間間隔を指定します。範囲は 0 ~ 4294967295 です。
<b>priority</b>	(任意) Syslog メッセージのプライオリティ レベルを指定します。このキーワードを指定しないと、すべての Syslog メッセージのプライオリティレベルが「情報レベル」に設定されます。このキーワードを指定する場合はプライオリティ レベル引数を指定する必要があります。
<b>0-7</b>	(任意) ログ メッセージのプライオリティを入力します。
<b>emergencies</b>	(任意) システムが使用不能であることを指定します。
<b>alerts</b>	(任意) すぐに対処が必要であることを指定します。
<b>critical</b>	(任意) クリティカル状態を指定します。
<b>errors</b>	(任意) エラー状態を指定します。
<b>warnings</b>	(任意) 警告状態を指定します。
<b>notifications</b>	(任意) 正常ではあるものの重要な状態を指定します。
<b>informational</b>	(任意) 情報メッセージを指定します。これはデフォルトです。
<b>debugging</b>	(任意) デバッグ メッセージを指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザーロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2.(1)	<b>tag tag</b> キーワードが追加されました。
5.1.(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**

このコマンドにライセンスは必要ありません。

**例**

次に、EEM アプレットが起動されたとき、Syslog メッセージを監視するように設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config-applet)# event syslog occurs 10 pattern "authentication failed"
Configuration accepted successfully
```

次に、Syslog メッセージのモニタの設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config-applet)# event syslog occurs 10 pattern "authentication failed"
Configuration accepted successfully
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>action syslog</b>	組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットがトリガーされたときに、syslog メッセージを生成するように設定します。

# event temperature

温度イベントに基づいて起動される組み込み型イベント マネージャ (EEM) アプレットのイベント条件を指定するには、**event temperature** コマンドを使用します。温度イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**event temperature** [*module module*] [*sensor number*] **threshold** {**major** | **minor** | **any**}

**no event temperature threshold** {**major** | **minor** | **any**}

## 構文の説明

<b>module</b> <i>module</i>	(任意) 特定のモジュールをモニタする必要があることを指定します。範囲は 1 ~ 10 です。
<b>sensor</b> <i>number</i>	(任意) モニタする特定のセンサー ( <b>sensor</b> ) を指定します。有効な範囲は 1 ~ 18 です。
<b>threshold</b>	EEM アプレットを起動するしきい値イベントを指定します。 <b>major</b> 、 <b>minor</b> 、または <b>any</b> ( <b>major</b> または <b>minor</b> ) のいずれかを選択します。
<b>major</b>	メジャー イベントを指定します。
<b>minor</b>	マイナー イベントを指定します。
<b>any</b>	任意のイベントを指定します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、温度イベントが発生したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet temp-applet
switch(config-applet)# event temperature threshold major
switch(config-applet)#
```

# event track

指定したオブジェクト番号の Object Tracking サブシステム レポートに基づいて起動される組み込み型 イベント マネージャ (EEM) アプレットのイベント条件を指定するには、**event track** コマンドを使用します。レポート イベント条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
event track [tag tag] object-id state {any | up | down}
```

```
no event track [tag tag] object-id
```

## 構文の説明

<b>tag tag</b>	(任意) 複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。
<b>object-id</b>	追跡されるオブジェクト番号。範囲は 1 ~ 500 です。
<b>state</b>	イベントを発生させる、追跡対象オブジェクトの状態移行を指定します。
<b>up</b>	追跡対象オブジェクトがダウン状態からアップ状態に移行したときにイベントが発生するよう、指定します。
<b>down</b>	追跡対象オブジェクトがアップ状態からダウン状態に移行したときにイベントが発生するよう、指定します。
<b>any</b>	追跡対象オブジェクトが任意の状態から任意の状態に移行したときにイベントが発生するよう、指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

Embedded Event Manager

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2.(1)	<b>tag tag</b> キーワードが追加されました。
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、追跡対象オブジェクトの状態が変化したときに EEM アプレットが起動されるように指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet tracking-applet
switch(config-applet)# event track 42 state down
switch(config-applet)#
```

# exporter

NetFlow モニタで使用されるよう、NetFlow エクスポートを指定するには、**exporter** コマンドを使用します。NetFlow エクスポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**exporter name**

**no exporter name**

## 構文の説明

*name*                    エクスポート名。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

NetFlow モニタ コンフィギュレーション (config-flow-monitor)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、NetFlow モニタに NetFlow エクスポートを設定する例を示します。

```
switch(config)# flow monitor Custom-Flow-Monitor-1
switch(config-flow-monitor)# exporter Custom-Flow-Exporter-1
switch(config-flow-monitor)#
```

次に、NetFlow エクスポートを削除する例を示します。

```
switch(config-flow-monitor)# no exporter
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show flow sw-monitor</b>	NetFlow モニタに関する情報を表示します。

